

Abnormal white matter structure in hoarding disorder

溝部, 太郎

<https://hdl.handle.net/2324/4795541>

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : (c) 2022 Published by Elsevier Ltd.

氏名： 溝部 太郎

論文名： Abnormal white matter structure in hoarding disorder

(ためこみ症の白質構造の異常)

区分： 甲

論文内容の要旨

ためこみ症(HD)の神経画像の予備的研究では、HDは課題に関連した神経活動の異常を示すことが示唆されているが、HD患者における白質路の変化を調査した論文はない。本研究の目的は、HD患者における主要な白質路の異常を調査することである。Tract-based spatial statistics(TBSS)を用いて、HD患者25名と健常対照者(HCs)36名の全脳の主要な白質路の異常を調査した。さらに、臨床的特徴との相関関係を調査するために関心領域の事後解析を実施した。TBSSでは、対照群と比較してHD患者の白質路において拡散異方性比率(FA)の低下と放射拡散係数(RD)の増加を示した。関心領域の事後解析では、ためこみ症状の重症度と左内包前脚(ALIC)のFAは負の相関を示し、さらに、ためこみ症状の重症度と右前視床放線(ATR)のRDは正の相関を示した。HD患者では、前頭皮質視床回路、前頭頭頂葉ネットワーク、前頭辺縁系経路などの前頭白質路に広範な変化が認められた。本研究の結果は、HDにおける、ためこみ症状の重症度に関連する前頭白質路の異常と、HDの認知機能障害に関わる皮質領域の異常との関連を示唆している。本研究で得られた知見はHDの神経生物学的基盤を理解するうえで有用であると考えられる。